

筑波山に上つて丹比ノ国人の作つた歌

鶏がなく吾妻の国に、高山はさはにあれども 二上ふたがみの尊

き山の 並なみみ立ちの見がほし山と 神代より人の言い継

ぎ 国見する筑波の山を 冬籠ふゆごもりりときじく時と 見ずて

去なばまして恋しみ 雪消ゆきぞする 山道すらをなづみぞ我

が来し